



クローズアップ
CLOSE UP

待ちわびた春に花開く

3月23日、前橋地方気象台がソメイヨシノの開花を宣言。4月1日には満開になりました。薄紅色の桜と黄色の菜の花との鮮やかなコントラストなど、美しい景色が市内のあちこちに。前橋公園ではライトアップが行われ、幻想的な雰囲気を出しました。



城東駅が利用しやすく

3月25日、上毛電鉄城東駅に東口を開設。児童文化センターや勢多農林高へ行きやすくなりました。開設セレモニーでは、同校郷土芸能部が和太鼓演奏などを実施。また、招待を受けた沿線の園児たちが、東口を歩いて児童文化センターへ向かいました。



新校への思いをばたく

中央小で3月25日に「はばたき式」を開催しました。会場には59年間の学校の歴史を展示するコーナーが設けられ、当時を懐かしむ卒業生の姿も。児童たちは最後の校歌を力いっぱい歌い、新たな学び舎となる桃井小へと、元気に羽ばたきました。

いきいき
まえばし人

双子でキュウリ栽培
堀越直樹さん・43歳
江木町
堀越徹也さん・43歳
富田町

力を合わせて経営の質を高めたい



双子でキュウリ栽培に励む堀越さん兄弟。農業経営の発展に貢献した人などを表彰する日本農業賞の大賞を受賞した。雇用の促進と施設の自動化で、快適でゆとりある大規模経営を実現した手法は「堀越モデル」と言われる。「親の代から積み重ねてきたことが評価されたのだと思います」と兄の徹也さん。弟の直樹さんは「6年前に就農し、少しでも力になりたいと思い頑張ってきたのでうれいす」と語る。二人とも高校まではサッカーに励んできた。卒業後、徹也さんは農林大学校で学び就農。直樹さんは半導体メーカーで勤務経験を経た後、経営に参画した。「幼い頃から一緒だったので息の合った仕事ができます。お互いの経歴を生かし、3人分の力が発揮できていると思います」と二人。徹也さんは父から継承した技術を活用し、直樹さんはメーカー勤務で学んだ作業のマニュアル化などを導入した。「頑張りが成果に表れるのが魅力です。工夫を重ね、子どもが自然に後を継げるような環境をつくりたいですね」と徹也さんは語る。二人の力を合わせることで、「堀越モデル」の魅力がさらに高まっていくことだろう。



前橋市立図書館は、赤レンガのタイで造られた洋風の建物。明治時代、市内にはたくさんある赤レンガの建物があり、前橋の象徴でした。作られた当時はきっとモダンなデザインだったのではないのでしょうか。今は、どこか懐かしさを感じられます。

前橋らしさを残す図書館で
懐かしさを感じながら



市立図書館
大塚 樹里子

前橋ブック
ストリート
MAEBASHI BOOK STREET

ことして開館100周年を迎えた前橋市立図書館の今をお伝えします。

Vol.01



この建物を設計したのは、本市出身の建築家、林昭男さん。昭和49年5月に誕生した三代目の館舎です。赤レンガ風の外壁や、中央図書室の中2階、竹が生えた中庭が特徴。和風と洋風の両方の雰囲気を感じることができるとのこと。館内は30万冊を超える本などを収蔵。前橋の人口とほとんど同じ数の本があるんですよ。一般的な書籍はもちろん、雑誌やCDなど、さまざまな種類の蔵書を収めています。その中には酒井家や松平家などの郷土資料や萩原朔太郎の著作も。貴重な資料たちを、この赤レンガの建物で守っています。昔の前橋らしさを、今も守り続ける市立図書館。歴史を感じながら、お気に入りの本を探してみませんか。次の担当は、当館職員の平林花和子です。